

第1回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 議事概要

1 日 時 令和7年5月9日（金） 9:30～11:00

2 場 所 県庁4階大会議室

3 委員出席者 新田 八朗 廣島 伸一 坪池 宏 大西 ゆかり
黒田 卓 牧田 和樹 伊東 潤一郎 佐伯 真未
品川 祐一郎 白江 日呂雄 杉木 貴文 林 誠一
本江 孝一 松山 朋朗

4 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

知事挨拶

(知事)

皆様おはようございます。大変ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。皆様には日頃から、富山県政の推進に、それぞれの立場でご協力をいただいております。また、この度の本委員会の検討会議の委員の就任についてもご快諾いただきありがとうございます。

今、人口減少が止まらない状況です。一方でAIが実用化、さらに進化するなど、我々を取り巻く環境は大きく変わっています。そんな中で、教育はどうあるべきか検討する必要性を感じ、令和3年以来、今後の県立高校のあり方について幅広い意見を伺ってきたところです。昨年度は4つの学区ごとにワークショップを3回、意見交換会を2回開催しました。さらに市町村長あるいは高校生との意見交換も行い、教職員や高校2年生へのアンケート、若手教員グループトーク、そしてパブリックコメントを実施するなど、丁寧に幅広く何度もご意見を伺ってきました。この度これらのご意見を踏まえ、総合教育会議においても議論を重ね、今日、ご議論いただく「新時代とやまハイスクール構想」の基本方針をまとめるところまで参りました。

そして、今年度はこの基本方針に基づき、本検討会でまずは大規模校の設置方針、令和20年度までの各期に開設する新時代ハイスクールの方向性について、第1期校の開設の方針、さらに第1期校開設に必要となる再編統合をどうすべきかということについて、皆さんにご検討いただきたいと思います。これまでも教育委員会の会合にご参加いただいた方もたくさんおられます。本当に、貴重なご意見をいただいておりますが、今回も「こどもまんなか」の視点がぶれずに、基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」の実現に向けて、皆様の積極的な忌憚のないご意見をお願いします。

引き続き、富山県の教育や子どもたちのために、皆さんのお力をお貸しいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

組織運営事項（進行及び副会長の使命）

事務局より「新時代とやまハイスクール構想検討会議設置要綱」の内容について説明した。

議事に先立ち、同要綱第5条第2項に定める会議の進行には廣島委員が、また同要綱第4条第3項に定める副会長には林委員がそれぞれ会長から指名された。

議事事項

○ 「新時代とやまハイスクール構想」基本方針について

○ 今後の進め方について

資料に基づき事務局から説明した。

（委員）

ただいま事務局から、基本方針について、進め方等も併せて、説明いただきました。これらに関しまして、委員の皆様、今回は初めてということですので、それぞれから現時点でのご意見ををお願いします。

（委員）

まず、人口減少というのは、今大きな課題であると思っています。それについて、特に高校はどうあるべきなのかということが問われています。加えて、生徒の実態も、今では随分変わってきているように感じています。また、社会の要求や学校に対する期待も大きく変化してきていると思います。そういう意味では、高校、或いは学校全体、学校教育のあり方が問われています。変わるものは変わらなくてはいけない。それから今までのものでいいものは、継承していかなくてはいけない。このようなことなのだろうと思います。

そういう意味では、3ページの教育内容を踏まえて、大規模校、中規模校、小規模校と落とし込んで、非常によくまとまっていると思います。今後の実現の仕方として、バックキャストの視点で、目指す姿から逆算的に配置の姿を考えるという考え方は非常にいいのではないかと思います。

特に、6ページの③にあるように、現在、すべての高等学校を移行準備校としていく、つまり、すべての学校が何らかの形で変革を求められているため、県立学校においては、当事者意識を持って、しっかり取り組んでいく必要があると考えています。

（委員）

この基本方針を設定するために会議などに参加してきましたが、私たちが今、できる限りの良いものができたと思っています。教育県富山というふうに掲げ続け、充実した教育環境を整えていくには、どこから取りかかるかということがあるかと思います。今回、県立高校から取りかかることによって、義務教育も含めて、教育全体が変わっていくことに繋がるのではないかと期待ももっています。このことを検討するには、少なくとも私自身のこれまでの知識や経験では及びもつかないような内容になるのではないかと思います。私自身も、いろいろな学校の形態、特に大規模校は今まで経験したことがないため、学んだり、実際に見学に行ったりしながら、意見を述べていきたいと思っています。

富山の新しい教育、未来の社会を支えていく子どもたちのために、私たちが今できることについて、この会議で十分に話し合うことができたと思います。

(委員)

基本方針としては非常によくまとまっていると思いますが、これまで何度も繰り返されているワークショップなどで、残念ながら、それがしっかり理解された議論があまりされていないというのが率直な感想です。先ほどの委員の話にもありましたが、これからの高校は、どのような形になっていかなければいけないのかということをしかり踏まえながら、高校のあり方を変えていく必要があると思います。私はちょうど30年ぐらい前に富山に来ましたが、ちょうどその頃が、最後に、新しい高校が作られた時代でした。そこからは徐々に学級減や統廃合により高校が減ってきています。そのような様子を県民の皆さんは見てきているので、再編というと、どこかとどこかをくっつけるとかどこかをなくすということであるとイメージをされていると思いますが、そうではなくて新しい学校を作っていくという発想を持って考えていけたらと思います。

(委員)

我々教育委員は、教育委員会と総合教育会議で十分に検討し、議論をしてきて、今回、基本方針を作り上げたという意識をもっています。その背景ですが、人口減少に適應するために、どこかの学校とどこかの学校をくっつけるというこれまでのやり方で高校再編することに限界が見えてきたのが、スタートだろうと思っています。そういった意味では、今後の高校のあり方の検討については、「こどもまんなか」であるべきだと考えています。子どもたちにとって、ベストな教育をする環境を整えるには、まず目的が必要であり、どういう子どもになって欲しいかということが、基本方針のⅠの一人一人の生きる力やレジリエンスを育むこと、つまり子どもたちが社会に出るときに、スキルも何も身に付けていなければ自活できないので、自活できる力を身に付けさせるというのが目的だろうと思います。そのために、ハードやソフト、システムを変えなければいけないのですが、ハードの部分というのは、規模や学校の数だと思います。それからソフトの部分というのは、どういう教育内容、つまり基本方針のⅡ(2)のグローバルやSTEAM、職業系の学科という中身がソフトとして出てくるわけです。

最後にそれをどう運用していくかというシステムが必要で、私はこれを学校マネジメントだと思っていますが、基本方針のⅢで、入試も変えなければいけない、人材のことも考えなければいけないというのが、この建て付けになっていると思います。これをベースにして、例えば今回、学校規模を決めたとしても、ソフトである学習内容や教科内容によっては、規模を若干修正することもあり得るでしょうし、何か1つ決めて次の1つをやっていくというよりは総合的にこの会議で作り上げていくことが大事だろうと思っています。ぜひ皆さんとともに、よりよい形となるよう具体的にしていきたいと思います。

(委員)

中身については大変素晴らしくまとまっていると思います。

富山県内において、進学校と言われる学校も再編統合の対象であり、子どもが真ん中な

のであれば、どの学校も関係なく統合するという意識をもって会議を進めていかなければいけないと思っています。

仕事で県外に出ることが多いので、学校の設置という点では、富山は贅沢だと思っています。どこにいても1時間あったら通えるという、この富山県の素晴らしい環境を生かして、学校を設置していくべきだと思います。北海道のように、隣の町の隣の高校まで、2時間かかるという世界で再編するわけではなく、一番遠いところから学校まで1時間以内で行ける環境である私たちが、その学校の設置についてどう考えていくかというようなことは、考えていかなければいけないと思います。

(委員)

P T A連合会では、今すごく予測不可能な時代であり、激しい変化がある時代ということで、子どもたちの心を強くしていくことに力を入れていかなければならないということを日頃から話をしています。

学びに向かって自分自身で課題を見つけて、自分自身の力、そして仲間と一緒に解決しようとしていく力も育むことの大切さを痛感しています。今回、このような計画を拝見して、新しい時代の高校が始まるということで、とても期待をしています。一方で、進学先の選び方が大きく変わっていくことや、通学距離が増えていくこと、部活動にどのような影響があるかということなど、いろいろと不安もあります。義務教育からどう繋がっていくのかということも、不安に思う点の1つです。子どもたちの多感な時期で、自分の人生を作っていくという大切な高校生活において、大きな不安を抱えないように、安心できる環境や安心できる情報を、保護者・生徒にも周知していただけるとありがたいと思います。

(委員)

人口減少や少子化、若者の県外流出などの一方で、教員の働き方改革、公私比率撤廃、高校授業料無償化という大きな環境変化の中、この度打ち出された、全高校を移行準備校とするという方針には賛成です。

また、大規模校については、本当に多様な選択肢を提供できます。大勢の中でより社会性を育める、教員の働き方改革や部活動の強化、そういったメリットもある大規模校の設置にも賛成です。一方、大規模校のデメリットもあるかと思うので、そういったことを補完する形で、地域バランスも含めて、中規模校を配置するということも打ち出されており、そちらも賛成です。

そして、一部を小規模校とすることについても、これまでのいろんな議論がありましたが、地域での役割もあるので、そういったバランスが非常にとれた提案となっており、賛成です。各論で言えば、中高一貫校や国際バカロレア認定校、中規模の進学校のあり方については、県内の私立高校との兼ね合いが必要だと思います。私立高校とは共存共栄であるべきだと思っており、こどもまんなかとして打ち出された基本方針に基づいて、戦略性をもって検討していくべきではないかと思っています。

(委員)

資料3の補足資料で、生徒数の減少に大変驚いています。令和7年から21年に3,000人も減るということで、これは300人ほどの規模の学校が10校減ることになるので、大変なことです。その中で、基本方針をまとめられた関係者の皆様には、大変ご苦勞があったと思います。知事のご挨拶にもありましたが、様々な角度からいろいろな会議を通して意見を吸い上げ、本当にいいものに仕上がっていると思います。その中でも、大規模校については、これまでの経験をもとに、少しでも参考になるような意見をお伝えできればと思っています。

(委員)

こちらの資料については大変よくまとまっており、この資料に書かれていることを私は自分事として捉えています。この資料のソフト面についてですが、高校の頃に学んだ英語や数学などへの興味が、自分の今のビジネスに繋がっているのも、生徒の興味をできるだけ引き出して、それが学びや将来の進路に繋がることをサポートできる教育者の方の育成や民間企業の方との連携ができることが大事だと思います。また、教育内容の高度化に伴い、教員のウェルビーイングの向上や環境整備も必要になるのではないかと思います。

もう一つ、新田知事の会見での発言などから私が非常に興味を持っているのは、基本方針Ⅲの4①にある入試制度に関する事、特にDAアルゴリズムなどを使ったデジタル併願制の導入についてです。高校の再編のタイミングに合わせて、導入することで非常に効果的にすることが可能です。例えば高校選びの時に合格可能性が原因で親と揉めるといったことが、このデジタル併願があると解消できるので、是非取り組んでいければと思っています。

(委員)

3つお話をしたいと思います。

1つ目は基本方針についてです。昨年度から、ワークショップや意見交換会、若手の教員の集まりの様子を見に行きましたが、嬉しいなと思ったのは、これからの子どもたちにどんな教育が必要かという柱がしっかりしていたということです。そういう意見が非常に多かったことが嬉しいと思いました。一方、先が見えない部分はまだ残されています。これまでの再編以上に非常に丁寧に会合を持ち、実際にいろんな学校を視察し、話を聞かれています。それは教育委員の皆さんも勿論ですが、経済界の方、県議会議員の方々も非常に積極的に回られて勉強され、その集約としてまとまったものが基本方針として出てきたことが素晴らしいと感じています。

2つ目は、高校が変わったなと感じることです。ここ2、3年は特に変わったなと感じることが多いです。生徒も先生方も変わらないといけないという意識が、もっと必要だとは思いますが、高校がここまで変わってきたということを感じています。全高校を対象として、新しい学校を考えていこうという中で、そういう動きがあることを、とても嬉しいと思っています。

最後ですが、基本方針を基に、この後、細かなところに入っていくと思いますが、各論に入ってくると、様々な意見が出てきて、そもそもこれは何のために考えていたのかがわ

からなくなることがあります。大人の理論で高校の在り方を考えるよりも、一体誰のための、何のためにこの議論をして進んでいこうとしているのかを忘れずに、この会議で議論していかないといけないと改めて思っています。

(委員)

基本方針と今後の議論の進め方について、令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿を思い描くことは、未来の方向性を考える上で大変大切なことであると思っています。生徒数が減少する中で、令和 20 年度に学校数を 20 校から 22 校程度にして、3 期に分けて、教育内容や学校規模、配置といったこと考えていくのは賛成です。

すべての学校が再編対象であるという設定ですが、これは新しい学校を作っていこうという意気込みの表れだと思っており大変素晴らしいことだと思います。

一方で、現在ある各高校の特色をどのように評価して、これまで培ってきたものを新しい学校に生かしていくのかについては、ここにはあまり盛り込まれていないと思っています。実際、第 1 期の令和 10 年には県東部西部でそれぞれ 4 校から 5 校、合わせて県全体で 8 校から 10 校が閉校する計画になっています。もちろんそれに伴って、合わせて 4 校から 6 校新しい学校ができるわけですが、新しい学校においても、これまでの特色が生かされるような計画にしていきたいと思っています。

またこの計画ですが、新たな学校については、今申し上げた内容と規模や配置数の目安が示されていますが、具体はこれからだと思います。

今回はまず大規模校の設置について検討するということですが、これだけ壮大な計画なので、中規模校や小規模校の内容や配置などを含めた全体像とともに考えていかなければ、バランスのとれた配置、学校規模というのはなかなか議論できないのではないかと感じています。

実際のところ、令和 20 年度の学校数については、基本方針に取りまとめる段階で、学校数が修正されているので、大規模校の規模や学校数が令和 20 年度の学校数に直接影響することを示していると認識しており慎重に考えるべきと思っています。

また、生徒が多様な外国文化に触れ、学ぶということは大変大切なことだと思いますが、国際バカロレアについては、生徒数の少ない本県では、学校が成立するだけのニーズが期待できないと思いますし、教員の確保など、困難な課題を抱えていると認識しています。

もう一つ、大規模校の方は、計画の中に、学校を新築することも視野に入れて計画されています。現在、小中学校の方も再編が進んでいて、校舎が非常に綺麗で新しいものになっています。そういった新しい校舎で学んでくる中学生にとっても、魅力的な学び舎になるように、その他の学校も計画的に新しくしていただけたら有り難いと思っています。

(委員)

令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会や県立高校教育振興検討会議にも参加いたしましたが、これらの会議を通して自分が高校生だった頃と比べると、生徒数や社会、大学の変化、生徒自身の考え方などいろいろなところで大きい変化があることに気付かされました。その気付きというのは決して楽観的なものではなく、今後の社会に対する危機感だと感じました。今回、基本目標に「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」と

掲げて 2038 年の姿からバックキャスティングで段階的かつ具体的に内容を検討する本会議というのは、当然 2038 年の子どもたちを想定していますが、彼ら彼女らが、社会に出て働いて家庭を持って生きていく 2050 年、2060 年といった未来の富山を作る大事な会議でもあるので、身の引き締まる思いです。

またよく言われる VUCA な時代に生きるために、企業では、ビジョンの明確化や、従来のマネジメントシステムからの脱却、迅速かつ大胆な意思決定、そういったものを意識して活動をしています。この会議においても、基本目標をしっかりと皆さんと共有しながら、従来の考え方やシステムにとらわれない大胆な議論を交わしながら、段階的かつ具体的に意思決定していくような形になればと思っています。

基本方針についてですが、大規模校ではたくさんの選択科目があり、非常にすばらしいと思っていますが、逆に子どもたちが将来を意識しながら科目を選べるのか、指導する先生も大変ではないかと思います。そのようなことについては民間や企業が支える必要があると思います。当然そこには、県民がこの問題を、ジブンゴトと捉え、県民みんなで課題を共有する必要があると思います。

また、富山県の交通機関は非常に整っているというお話がありましたが、当然生徒の足は公共交通機関なので、別の会議になるとは思いますが、公共交通の施策についてもしっかりと議論をして、富山でしっかりと子どもたちを育成する場が作られるといいと思います。

(委員)

人口減少の新時代に対応した県立高校を作る上で、こどもまんなかで生徒の将来を考えた学校づくりが最も重要ですが、彼らを教え導く教員のウェルビーイング向上も重要です。新たなカリキュラムを導入するとなれば、前もって教員に研修の機会を与え、準備を整える期間が必要となると思われます。

またここ数年、特に 20～30 代の教員に、メンタルヘルス不調、長期休職を余儀なくされる事例が全国的に多くなっていることが指摘されていることから、これらの世代の教員の採用を是非とも増やしておかなければ、人がいないから研修にも出させられないといったことがないようにするべきだと思います。また、学校の規模と数を早く決定ができれば、採用すべき人数も浮かび上がってくるのではないかと思います。

(委員)

普通系学科の区分にある「STEAM」、「グローバル」、「未来創造」などの内容の他、複数の学科が併設され、多くの科目から選択履修できる学校と、総合学科の違いが、一般の方にはわかりにくいと思います。中学生や保護者への情報提供という点からも、具体的に学ぶ内容や進路などをわかりやすく提示できるとよいと考えます。また、各校の特色化においては、教員の意識改革が非常に重要であると思われます。さらに、総合学科の特色である将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習は、これからの時代も大切であり、生き方を選び取るプロセスを学ぶキャリア教育の視点を、すべての新時代ハイスクールで取り入れていくとよいと思います。これらの改革を連動させ、入試制度の検討はできるところから進めていく必要があると思います。

(委員)

新時代とやまハイスクール構想において、大規模校設置における方向性の策定が、中規模校・小規模校・職業系専門学科のあり方検討の肝となる中で、複数の学科を併設し、多くの科目から選択履修できる大規模校は、今後の予測が困難な変化の大きい時代において、個人の多様なニーズを捉えた時代性に合った教育のあり方であり、大きな期待ができる構想だと感じています。

一方、中規模校、小規模校ならではの魅力やねらいの策定、また大規模校との住み分けが明確化しないと、教育への偏りが生まれかねないとも感じます。

同様に、学びの多様性や主体性を新時代におけるテーマとした際に、職業系専門学科における新時代の教育のあり方も検討する必要があると思います。グローバル教育やICT、AIを活用した学習などの重要性が増している中、同時に強化を図るべきことは、日本や富山の文化、風土、歴史への学びを深めることだと思います。

日本人のシビックプライドは、ヨーロッパやアメリカ、アジアと比較すると非常に低いです。日本や地域に誇りを持つ子どもたちを増やすための教育が、新時代の教育において、より必要性を増しているように思います。

(委員)

事務局を預かる立場として昨年1年間、様々な意見を聞く場を設けて本当にたくさんの意見をいただきました。また県議会の方でも多くの議員の方からも課題認識を持っていた質問もいただいて、新田知事も含めて、一つ一つ丁寧に答弁してきました。

こうした中で私なりにポイントと感じたところは、昨年、高校現場の教員、そして高校2年生の皆さんに、将来の高校生のためにどのような県立高校が必要だと思うかアンケートをした際に、教員生徒双方で一番多かった回答は、学習内容を選択できる仕組みがある学校でした。こうしたことや様々なご意見があったことを踏まえると、将来の高校のあり方を考えるにあたり、学習内容を選択できる仕組みも含めて、生徒の皆さんに、自分で考えていただけるなるべく多くのパターンの選択肢がある形が望ましいのではないかと考えたところです。

この基本方針にはそうしたものを勘案していると認識しています。今回の議論においても委員の皆様から、より多くお聞きし、人口減少の中で多くを提供することは難しい状態になっていくとは思いますが、それを乗り越えて、一つの方向性を見出していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(会長)

委員の皆様から、それぞれの知見に基づいたご意見をいただき、ありがとうございます。そして、概ねこの基本方針については、ご賛同いただけると理解をしました。それとともに、これはあくまで基本方針なので、これを具体化していく上での様々な視点などもお示しいただきました。どうもありがとうございました。

冒頭にも申し上げた大きな変化の中に我々はいるわけで、直近のことを見てもアメリカの関税が挙げられます。これは単に関税ということに限らず、いろいろな国や経済のあり方にも影響が出てくると思います。武力で世界市場を書き換えようということも現実に行

われています。また、宗教上の対立には根強いものがあるなど、現在の課題については我々大人が責任を持って対処していく必要があると思いますが、同時に、このような大きな変化、先が見通し辛い世の中というのは今後も続く、或いはさらに加速していくと思います。そのような中で生きていく子どもたちについて、しっかりと教育という面で、力をつけてあげたいと思います。少なくとも我々大人の責任として今やるべきことだと思います。

そこで、この「新時代とやまハイスクール構想」を、皆さんにお示ししています。「新時代に適応し未来を拓く人材の育成」、これを基本の目標としています。今後、これを実現するために、どのような教育内容で、どのような規模で、それから県内のどの位置にということ、様々な連立方程式になりますが、これらを最大限に満たすような具体策を皆さんとともに議論を深めていきたいと考えています。

令和2年には県立高校の再編統合により、4校の新高校が開校しました。さらにその数年後に、5つの高校のクラスを減らすということもしました。さらに、クラスの人数も減らし何とか適応していくことを続けていますが、このような微修正ではなかなか立ち行かない時代に来ていると判断し、今回のような大きな絵を描いています。具体的にはまだまだ課題もあると思います。この辺りはぜひ今後も煮詰めていただければと思います。

さらに、中高一貫校など、これまで本県になかったタイプの学校や入試制度についてもしっかりと検討する必要があると思います。学校は子どもたちが主役ですが、もう一つの主役である先生方のウェルビーイングの向上についても、皆さんのご意見を伺いたいと思っています。経済界では今、職員に対して、従業員のウェルビーイングの向上も経営の大きなテーマの一つになっていると伺っています。学校の先生たちについても、今後しっかりと考えていく必要があると思います。

この「新時代とやまハイスクール構想」は、大きく舵を切ることになると思っています。「こどもまんなか」としてぶれずに、皆さんと十分な議論を進めていければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

議事事項

○ 大規模校の設置方針について（非公開）

進行より、設置要綱第5条第3項、1号2号の規定に基づき、以後の会議を非公開とすることを委員に諮ったところ、異議はなく、以後の会議は非公開で行われた。

5 閉会

11時05分、司会が閉会を宣した。